

## 教育目標

- ★自ら鍛え心身ともに健康な人
- ★自ら考え進んで実行する人
- ★自ら学び続ける人



今を輝け!

# 西新宿中学校だより

令和6年4月10日

## 初心忘るべからず

校長 早川隆之

新入生の保護者の皆様、御入学おめでとうございます。2、3年生の保護者の皆様、進級おめでとうございます。桜咲く春の気持ちの良い季節が、生徒の皆さんの新たな希望をあと押ししてくれています。

新しい教科書や新しいノートに名前を書くときに新たな学年の準備がスタートされるんだなあとは感じています。

新1年生60名を迎え、2年生87名、3年生57名の全校生徒204名で令和6年度がスタートしました。

「初心忘るべからず」物事に慣れてくると、慢心してしまいがちです。はじめたときの新鮮で謙虚な気持ちや志を忘れてはいけないという室町時代に能を大成させた世阿弥の書「花鏡」に出てくる言葉だそうです。

世阿弥のいう「初心」とは私たちが解釈している意味とは少し違って、「始めたことの気持ちや志」すなわち「初志」ではなく、「芸の未熟さ」つまり「初心者のみっともなさ」を指しています。初心者の頃のみっともなさ、未熟さを折に触れて思い出すことにより、「あのみじめな状態には戻りたくない」と思うことでさらに精進できるのだと世阿弥は説いています。そして、若い頃の芸の未熟な頃を忘れなければ、そこから向上した今の芸も正しく認識できるのだとしています。ということは、世阿弥曰く「中学校2、3年生の先輩が初々しい中学校1年生の態度や様子を見て、その頃の自分を思い出し、本当に成長しているのか、自問自答しながら精進していきなさい」という意味に聞こえます。

また、中学校1年生としては、新たな気持ちでスタートする新鮮さを大切にしながら、今の気持ちを忘れずに一生懸命に中学校生活を楽しんでほしいと思います。中学校2、3年生も刺激を受け、中学校1年生とともに中学校生活を切磋琢磨しながら楽しみ、「初心忘るべからず」の新境地で学習に取り組むことが望まれます。

さて、生徒の皆さん、A d oという歌手は御存知でしょうか？「うっせえわ」という曲でデビューした歌手です。その歌詞の中にこんな一節があります。

つっても私模範人間  
殴ったりするのはノーセンキュー  
だったら言葉の銃口を  
その頭に突き付けて撃てば  
マジヤバない？止まれやしない  
不平不満垂れて成れの果て

サディスティックに変貌する精神

過激な歌詞、汚い言葉の羅列で教育的ではないイメージが先行しますが、その歌詞を読み解くと「暴力は良くない、言葉は武器になり得る。不平不満ばかり言っていると精神が病んでしまう。」こんな内容なのかなと読み取りました。汚い言葉の羅列の歌詞であっても中身はまともなことを歌っているのだと思いました。特に、「言葉の銃口をその頭に突き付けて撃てば」のフレーズは言葉の暴力性が表現されています。言葉一つで人は傷付き、一度傷付いてしまった深い心の傷は、なかなか消すことができません。お互いが気持ちよく生活するために、言葉遣いに気を配り過ぎてほしいなと思います。ぜひとも中学校という新時代を自分たちでつくり、積極的に主体的な楽しい学校生活を切り拓いていってください。